ひゅーまんらいつ

託された思い
～ハンセン病問題を考えよう～

Q1．ハンセン病とは？

・「らい菌」に感染することで起こる感染症。
　特徴①：体内に備わっている**免疫力で破壊されるほど非常に弱い感染力**。
　　現在は、治療法が確立しており、長島愛生園の入所者 78 名全員、完治している。
　　医師、看護師、職員への感染も今までにない。
　特徴②：**潜伏期間が非常に長いのが特徴**。
　　数か月から～数年、数十年。ほとんどの方が免疫力の弱い乳幼児期に感染し、成長して発症。

・発病すると皮膚や末梢神経に影響が出る。（現在、日本での感染者はほぼない）

Q2．手足などの末梢神経に影響が出るとどうなる？

例えば、
①「熱い」といった感覚がなくなる
②熱いことに気づかず、やけどする
③やけどの痛みに気づかず、悪化

①顔の筋肉が動かなくなる
②まばたきができなくなる
③目の病気になる

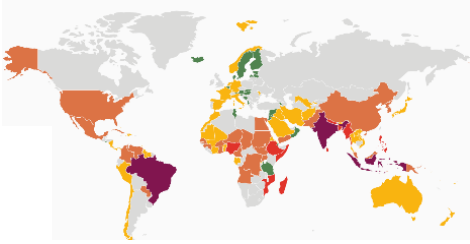
昔は治療法がなく、**後遺症が残る**人が多かった
↓
見た目に残ってしまう
↓
「自分もなってしまうと…」という**恐れ**
↓
差別

Q3．ハンセン病に感染した人はどのような暮らしをしていた？

・家族とも離れ、放浪しながら暮らし、巡礼の旅に出る人もいた。
　（四国八十八か所霊場の巡礼には多くのハンセン病患者がいた）

・明治 40 年「癩予防ニ関スル件」という法律がつくり、**患者を強制的に収容**。
「ハンセン病絶滅政策」が行われ、差別や偏見が一層助長された。
・昭和 22 年、**治療薬であるプロミンが開発され、治る病気になった**。しかし、**法律を解消する努力を国は行わず、完治しても故郷に戻ることができなかった**。

Q4．感染力が非常に弱いにもかかわらず、長島愛生園の入所者はなぜ感染したの？



・免疫力の弱い乳幼児は、感染する可能性がある。
・入所者の方の幼少期は、**戦時中で食糧不足、栄養不足で免疫力も低下。衛生状態も悪く、そのときに感染**し、成長して発症した。

・現在でも、**世界には感染者は 20 万人おり、そのほとんどが途上国**。
それらの国ではまだ、**差別や偏見、それによる貧困問題**が大きな課題に。
ハンセン病は社会を映す鏡であり、**貧困病**と言われている。
WHOでハンセン病は、人類の中で抑圧すべき「顧みられない熱帯病」の１つとされおり、「誰一人取り残さない」という理念の **SDGsの目標 10「人や国の不平等をなくそう」**の課題でもある。

参考：国立療養所長島愛生園　学芸員講話、HP“Leprosy Mission International”

＜人権委員会交流学習会に参加！＞

８月１日、番城福祉会館で開催された宇和島地区生徒人権委員会交流学習会に参加しました。

午前中は、三間町隣保館前館長である山下辰雄さんに「**江戸時代における人権獲得のための闘い～土居子式部騒動と武左衛門一揆～**」についてのお話を伺いました。

午後は、昨年度の**津島町県外研修会での学びを報告**しました。50 分という長い時間でしたが、他校の生徒の皆さんが真剣に参加して下さり、**山口県での学びを宇和島地区に広げることができました。**

アンネのバラプロジェクトについても報告しました。そして、ついに**挿し木から育てたアンネのバラの苗を南宇和高校に引き継ぎました！**

＜人権フォーラムに参加！＞

８月 24 日に八幡浜市のゆめみかんで行われた人権フォーラムに津島中学校、人権バンドのエポコールと参加し、一緒に宇和島市の代表として発表しました。

2001 年、当時**高校生だった少年が作詞した『夜明け』**の詞を中学生が朗読しました。

７月末の**作詞者へのインタビュー内容、**

そして、**宇和島市の識字学級や八幡事件**などのこれまでの宇和島市の部落差別解消への歩みを発表しました。

歴史の最先端にいる私たちが、**歴史を学び正しい知識を持つこと、差別を見抜き、正しい判断をすること、そして、差別をなくすために行動したい、**という思いを伝えました。